

経皮的腎動脈形成術(PTRA)において血管内超音波(IVUS)が有用であった一例

【症例】20 歳台男性、高血圧症状が続き、2018 年 9 月に当院紹介。腎動脈起始部付近に狭窄の診断、狭窄に対して IVUS ガイド下による PTRA を施行し、IVUS が有用であった症例を報告する。【術中】腎動脈造影により左腎動脈起始部に 90%の狭窄を確認した。IVUS にて血管内を観察、病変 LumenCSA3.13mm²・EEMCSA4.90mm²、正常血管 46.53mm²・51.57 mm²であった。IVUS 結果から病変部はプラークが原因ではなく血管の Shrink であると判断した。バルーン径は病変部の血管径に合わせて選択した。病変部の血管長径 2.64mm 短径 2.39mm の為 3.0mm×20mm のバルーンで拡張、4.0mm×20mm バルーンにサイズアップしたが腰部に痛みがあるとの訴えあり治療終了とした。【結果】最終 IVUS にて病変部 LumenCSA8.37mm²・EEMCSA10.67mm² まで拡張することができた。治療前左腎動脈末梢側圧 45/40mmHg 治療後 102/74mmHg に改善。年齢を考慮し、ステント留置による薬剤の服用を回避するためバルーンのみで終了とした。今後は外来にて経過観察を行う。【考察】造影所見のみでは判断できない血管の Shrink を IVUS を使用することで観察することができた。PTRA における IVUS 使用は適切なバルーン径の選択、解離などの危険を回避することに繋がり、より安全に治療を施行できた。このことから IVUS ガイド下の PTRA は有用だと考える。